

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
担当 : 熊澤 大輔	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

本科目では、財・サービスの投入-産出関係を表した産業連関表の基本的な解説から始まり、それらを用いた分析手法について学ぶ。本科目の目標は(1)産業連関表の読み方と構造を理解すること、(2)経済波及効果と投下労働量の計算を出来るようにすること、(3)投下労働量を用いてマルクスの基本定理を証明すること、の3点である。講義では、社会に財・サービスが二種類しか存在しない単純なケースで説明を行い、練習問題を通じて産業連関表の読み方や構造を理解することに重点をおいている。また、講義後半では産業連関表を用いて簡単な分析を行う予定である。

授業計画

- 第1回イントロダクション（講義の射程、成績評価）
- 第2回資本主義経済の特徴
- 第3回階級とオッズ比
- 第4回産業連関表の構造①経済波及効果
- 第5回産業連関表の構造②逆行列係数
- 第6回練習問題①逆行列係数の計算
- 第7回産業連関分析①投下労働量
- 第8回産業連関分析②総労働の配分
- 第9回産業連関分析③一般的なケース
- 第10回練習問題②投下労働量の計算
- 第11回労働の搾取
- 第12回マルクスの基本定理
- 第13回練習問題③労働の搾取の計算
- 第14回産業連関分析の応用
- 第15回総論（復習とまとめ）

教材・テキスト・参考文献等

参考文献

- ・浅利一郎・土居英二(2016)『地域間産業連関分析の理論と実際』日本評論社。
- ・宍戸駿太郎監修・環太平洋産業連関分析学会編(2010)『産業連関分析ガイドブック』東洋経済新報社。
- ・松尾匡・橋本貴彦(2016)『これからのマルクス経済学入門』筑摩選書

成績評価方法

中間レポート(50%)

期末レポート(50%)

※毎回出席をとり欠席回数が6回以上の場合評価対象外となります。

※レポートは練習問題の類似問題を解いてもらい提出してもらおう予定です。